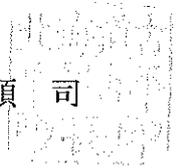


古 建 土 号
平成20年10月 9日

国土交通省道路局長 殿

古平町長 本 間 順 司



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号による依頼の標記について、下記のとおり提出いたします。

記

提出書類

様式①～④・・・・・・・・・・・・・・・・各1部

建設水道課 土木係

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

本町の道路行政は、平成13年度以来新規の道路事業の計画もなく、近年は交付税も削減され、財政状況も悪化の一途をたどっていますが、維持補修工事に重点を置き、緊急度で優先順位を決定し、なんとか予算枠の中で進めているのが現状です。今後の道路整備についても道路構造物の点検・補修の充実のため道路維持が重要と考えており、維持管理も含めた道路整備のための予算の確保を要望いたします。

地方の道路整備財源については、今後も多額の一般財源を投入せざるを得ない状況にあることから、地方の声や地域のニーズに即した道路整備を着実に推進するための財源を確保し、地方への配分割合を高めるなど、地方における道路整備財源を充実する必要があると思われます。このことで補助事業については、地域にあった補助率の見直し、採択条件の緩和、維持修繕関連メニューの追加など柔軟な事業に対応した制度にしていただけるよう提案するとともに、地方道路整備臨時交付金事業についても制度の継続をお願いいたします。

人流・物流ともに約9割が自動車交通に依存している北海道において、主要産業である農水産業や観光産業においても、全国への農水産品出荷や、周遊観光の際に長距離を移動しなければなりません。より迅速に、安全、快適に移動ができるように、早期の高速交通ネットワーク形成に向けて、重点的・効率的に整備を進める必要がありますので、高規格道路計画の小樽市～余市町間の早期供用開始、余市町～黒松内町までの早期事業着手を要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

北海道 古平町

○現状

本町には、国道229号、一般道道998号、道道ワラビタイ古平線と町道133路線があります。国道・道道は、道央圏に通じる重要路線であり、平成8年の豊浜トンネル崩落事故以降は防災対策整備が進められ、大雨等による通行規制もいくつかの危険箇所のトンネル化により解消されております。

また、人口の年齢別構成を見ると、高齢化率が36.1%と非常に高く、高齢者が住みやすいまちづくりを進めているが、町内の医療機関は、一次医療を行う診療所と歯科医院しかなく、小児科・産科を初め専門的な医療を受けるには余市町・小樽市への通院が日常化している。

○課題

町内の生活・産業道路については、路線新設整備の必要は少ないものの、既存路線における危険箇所対策や舗装改修及び歩道延長が短い事から、歩行者にやさしい道路整備と四季を問わず高齢者が利用しやすい道路（排雪の行き届いた、見通しの良い道路）作りが必要である。また、健康で住み慣れた町で生活するには、救急搬送を含め、適切な医療を受けられることが肝要であり、そのための基盤として安心して通行できる道路が必要である。

②ー２地域の目指すべき将来像

北海道 古平町

町民生活の安全と利便および生産活動に密着した交通環境を実現するために、国道等の自然災害防止対策の促進を要望するとともに、市街地を通過する国道区間の交通量が多くなっていることから、線形改良についても取組むように要望します。また、町民生活に密接な各町道については、必要に応じて危険箇所補修、舗装改修、道路側溝整備などを進めて、より便利で快適な交通環境向上に努め、高齢者や弱者等も安心して通行できるように、歩道、横断歩道など歩行空間を整備推進します。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の確実性の強化 ・ 災害情報の更なる充実提供 ・ 交通死亡事故解消対策 ・ 冬期間も医療圏へ安全に移動できる除雪体制 ・ 高齢者が利用しやすい道路空間の建設 ・ 基幹ネットワークの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路橋の耐震補強 ・ 情報カメラシステムの充実 ・ 急カーブの解消、歩道・横断歩道の設置 ・ 豪雪時の除雪体制の強化・充実 ・ 歩道の増設・既設歩道舗装の路面整正及び段差解消・勾配改善 ・ 冬期間の除雪（除雪・運搬排雪） ・ 北海道横断自動車道の整備（小樽～余市間の早期供用開始、余市～黒松内間の早期事業着手） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の輸送道路確保 ・ 本システムにより耳からの情報だけでなく、映像からの情報も得られることから、確かな情報を伝達できる。 ・ 交通安全の向上 ・ 患者の安全・確実な搬送、 ・ 高齢者・弱者等の安全な歩行空間確保 ・ 住みよい町づくり ・ 地域観光振興 ・ 地域の交流促進 ・ 医療面での地域連携強化 	